

## 第6章 生きがいづくり、社会参加の促進

### 1 高齢者の経験・知識・技能の発揮

#### 【現状】

- 高齢者が永年培ってきた経験・知識・技能は、様々な分野でまちづくりの推進に不可欠であり、高齢者が有する能力を発揮できる場や機会の確保が重要となります。
- 高齢者の能力を生かせる場として、老人クラブ活動をはじめ、シルバー人材センターによる就業支援、老人福祉工場による生きがいと就労の提供など、様々なものがあります。
- 老人クラブ、シルバー人材センター、老人福祉工場の会員・就業者数が年々減少している状況にあり、各活動の魅力等について発信し、会員等の増加に努める必要があります。
- 老人福祉センターでは、地域の中での高齢者の生きがいづくりや、仲間づくりを支援するため、パソコン教室など的高齢者の教養学習に関する事業をはじめ、健康体操教室などの健康増進や社会参加の促進、介護予防に関する事業に力を入れています。
- 本市高齢者の就業率は兵庫県よりも少ないものの、年々増加しており、近年「医療、福祉」の分野で働く高齢者が増加している状況も見受けられています。
- 今後も、高齢者が有する経験や知識、技能を発揮し、活躍できる場を確保しつつ、生涯現役活動の促進を図っていくことが重要です。
- 高齢者の就労促進は、単なる労働力の向上のみにとどまらず、労働生産性の維持・向上、地域への社会貢献等、様々な面において極めて重要な役割を果たしており、労働による高齢者の健康維持・介護予防の効果も期待できます。

#### 【今後の方向】

- 高齢者が有する経験や知識、技能を発揮し、活躍できる場の確保に取り組みます。
- 老人クラブやシルバー人材センターなどの活動や魅力について、周知・啓発を図り、会員数の増加に取り組みます。

【施策・事業と方向性】

| 施策・事業                 | 方向性   |
|-----------------------|---|
| ①老人福祉センターにおける学習活動等の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者が健康で明るい生活を営むための高齢者福祉施設として、各種の相談、健康増進、教養の向上等に取り組み、地域での生きがいくくりや仲間づくりを進めます。</li> <li>○ 地域の中での高齢者の生きがいくくりや、仲間づくりを支援するために、パソコン教室など的高齢者の教養学習に関する事業をはじめ、健康体操教室などの健康増進や社会参加の促進、介護予防につながる事業の展開に努めます。</li> <li>○ 今後も利用者のニーズを的確に把握するとともに、地域の高齢者を支える人材の育成など、より効果的な事業展開に取り組みます。</li> </ul> |
| ②老人クラブへの支援            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 老人クラブは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、より一層の活性化を図り、高齢者の生きがいくくりや健康づくりを促進します。</li> </ul>  |
| ③高齢者の能力活用             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 再雇用制度の充実等によりシルバー人材センターの60歳台前半の入会者数は落ち込むことが予想されることから、啓発活動及び会員拡大を支援します。</li> <li>○ シルバー人材センターの既存会員の満足感を高める方策の検討と定着促進を図ること等が課題となっていることから、第3次事業活性化計画に基づき、会員数、就業率の向上に取り組むシルバー人材センターに対し、引き続き活動支援を行い、高年齢者の就業機会の増大を図ります。</li> </ul>  |
| ④老人福祉工場の運営            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者が就労を通じて連帯感を図りつつ、社会活動に参加することは、高齢者の健康づくりや生きがいくくりにつながるため、事業の周知・啓発を積極的に行い利用促進を図ります。</li> </ul>  |
| ⑤高齢者の社会参加の推進          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域における住民活動やボランティア活動への参画など高齢者自らが支え手となり、地域の中で活躍できるよう、多様な生活支援サービスの創出や地域での小地域福祉活動の充実を図るとともに、介護支援ボランティア制度の活用を検討するなど、その仕組みづくりに努めます。</li> <li>○ シルバー人材センターなどとの連携により、就労などを通じた高齢者の社会参加と生きがいくくりを推進し、閉じこもり予防や介護予防を進めます。</li> </ul>  |

## 2 生きがいづくりへの支援

### 【現状】

○ 今日の豊かな社会の基礎を築き、豊富な経験と知識を有する高齢者が敬愛されるとともに、うるおいのある生活を享受することは市民すべての喜びです。また、高齢者が地域社会の主要な構成員として、自らの経験や能力を生かして活動することは、生きがいづくりの一つの手段でもあり、世代を超えて活力ある地域社会を形成する上でも重要です。

○ 高齢者利用意向調査において、生きがいの有無を尋ねたところ、「感じている」は未認定者 74.8%、要支援者で 47.2%、要介護者で 47.2%と、介護度が高くなるにつれて生きがいを感じている人が少なくなっています。

○ また、どのようなときに生きがいを感じるか尋ねたところ、要支援・要介護状態に関わらず「家族（子ども・孫など）との交流」が約 8 割で最も多く、次いで「友人や知人との交流」が続いています。未認定者は「旅行や買い物などの外出」や「運動やスポーツ、文化活動などの趣味」が要支援者・要介護者に比べて多くなっています。

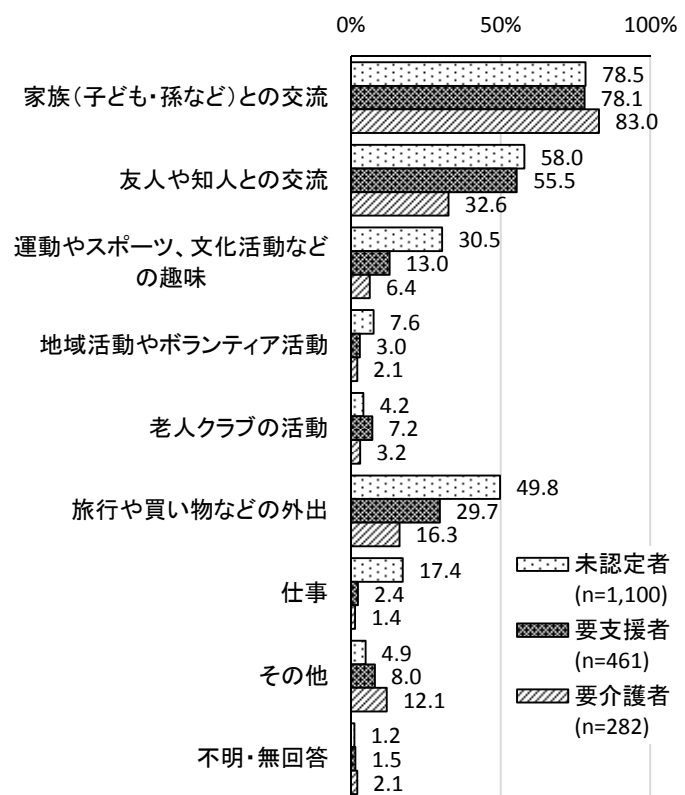
○ 本市では、高齢者のみならず、市民の誰もが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できる機会と場として、「さわやか地域スポーツ活動」

の実施をはじめ、ジョギングやサイクリング、フォークダンスなどを毎月行う「月例行事」、地区体育館を活用した「健康づくり教室」などを実施しています。

○ 高齢者の交流活動として、高齢者ふれあいサロンやいきいき百歳体操、子育て中の親子が気軽に集まることのできる子育てサークル、つどいの広場、子どもの登下校時の見守りなど、地域の特性に応じた見守りと居場所づくりが進められています。近年、様々な関係団体が協力し、子どもに寄り添いながら、食を通じた居場所・交流の場などの地域の自主的な取組の広がりが見られています。

○ 特に高齢者ふれあいサロンは、高齢者の交流の場として広がりを見せていますが、サロン活動が行われていない地域があることや、週 1 回程度の定期的な集い場としての活動が困難な地域もあるなど、地域における高齢者の居場所の確保と交流の場を拡げていくための取組が引き続き必要となっています。

どのようなときに生きがいを感じるか  
(生きがいを感じると答えた人の回答)



- 高齢者の生きがいがづくりや社会参加は、高齢者自身の生活の質（QOL）の向上のみならず、健康増進・介護予防にもつながり、地域間・世代間の交流は日常生活の安全・安心にもつながるため、引き続き積極的に取り組む必要があります。

【今後の方向】

- 高齢者自身が持つ能力や技能を発揮できる場や、高齢者の趣味や興味に応じた生きがい活動に取り組める様々な場や機会を提供するとともに、本市が行っている事業や地域の様々な取組について周知・啓発を行い、生きがいがづくりの促進に努めます。
- 高齢者ふれあいサロンや世代間交流、地域交流など、引き続き、高齢者が様々な人とふれあい、交流できる機会・場の提供に努めます。
- 高齢者の生きがいを引き出し、QOL（生活の質）の向上を目指す、（仮称）自立支援型地域ケア会議を確立・充実させ、自立支援の促進に努めます。

【施策・事業と方向性】

| 施策・事業          | 方向性   |
|----------------|---|
| ①身近な地域の集いの場の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住民主体の集いの場における高齢者の社会交流や生きがいがづくり、介護予防の一層の推進を図るため、引き続き、高齢者ふれあいサロン等の地域の集いの場づくりを推進します。</li> </ul>   |
| ②老人福祉センターの運営   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者が健康で明るい生活を営むための施設として、各種の相談に応じるとともに、健康増進、教養の向上のためのレクリエーションなどを開催し、地域の中での生きがいがづくりや仲間意識の醸成を図ります。</li> <li>○ 利用者のニーズを的確に把握するとともに、地域の高齢者を支える人材の育成や介護予防活動の普及・啓発を図る高齢者福祉施設として、より効果的な事業展開に取り組みます。</li> <li>○ 第1次尼崎市公共施設マネジメント計画（方針1：圧縮と再編の取組）に基づき、特に老朽化が進む老人福祉センターの機能移転や今後のあり方等について検討します。</li> </ul> |
| ③スポーツ活動        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種スポーツ・レクリエーション活動の推進により、高齢者も含めた参加者数の増加に取り組むとともに、それぞれの事業を通じて高齢者の仲間づくりを促進します。</li> <li>○ スポーツ・レクリエーション活動の参加者の増加に向け、高齢者も取り組みやすいスポーツ・レクリエーションの普及に努めるとともに、高齢者の生きがいがづくりにふさわしいスポーツ・レクリエーション活動を支援します。</li> <li>○ 高齢者と青少年等との活動の機会の提供に努めます。</li> </ul>   |

| 施策・事業                | 方向性  |
|----------------------|--|
| ④世代間交流の促進            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住民同士の顔の見える関係づくり（仲間づくり）や閉じこもり予防、介護予防や地域での見守り、支え合いを目的とした、誰もが気軽に立ち寄る交流スペースとなる高齢者ふれあいサロンなど、地域の特性に合わせた多様な取組を進めます。</li> <li>○ 子どもに寄り添いながら、地域のつながりの場にもなる食を通じた子どもの居場所・交流の場などの取組が地域の多世代交流の場として一層広がるよう支援します。</li> </ul> |
| ⑤敬老事業                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 永年にわたって、地域社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う機会として定着し、高齢者の健康維持や自らの生活の向上への意欲にもつながるため、今後も事業の継続に努めます。</li> </ul>  |
| ⑥自立した生活による生きがいつくりの提案 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要支援対象者等への多職種でのアセスメントにおいて、自立を阻害する要因を洗い出し適切な介護予防ケアマネジメントを行うことで、高齢者のQOLの向上を目指す仕組みを検討します。（自立支援型地域ケア会議等）</li> </ul>  |